

力がない・奉仕活動への取組みが少ない、幹部と意見が合わない等が多く見られました。会員増強に関する他地区資料を見ると、入会理由では会員との職業上の繋がりが大多数で、趣味の仲間も多くありました。そして、退会理由は、仲間意識の薄れ、親睦活動に魅力が無い等が大半です。尚、避けて通ることが難しい問題ですが、日本の会員数の推移は GDP の変化に呼応しているという見方もあります。

日本全体の統計では、入会1年未満での退会が7%、1~2年未満が10%、3~4年が13%、即ち、入会者の30%が4年以内に退会しているようで、その背景として、会員増強に重きが置かれて入会基準が甘いという見方があるようですが、私は、そうではなく、加入したクラブの活動に魅力が無いからではないかと考えます。従って、我々がまず取り組むべきは、縁あって入会した人がロータリアンになって良かったと思うような活動をクラブが追求すること、即ち、人類に奉仕するロータリーの第1歩は仲間に対する奉仕と考え、退会者を減らすことだと思います。具体的には、出席したくなる例会、参加したくなる親睦・奉仕活動の展開、及びロータリーを理解し、かつロータリー活動に対する関心を深める研修の強化です。

私が学校を卒業して企業に勤め始めた約50年前、職場では、部長は元より、課長の顔を見ることもまれてましたが、1990年代に入って産業のGlobalization、即ち国際化が進むと、企業間競争が激化し、大手企業でも今や課長・部長は元より、取締役も率先して仕事に直接携わらざるを得ない状況、言い換えれば職位があがるほどに仕事が厳しくなり、中には、社長も大部屋で一般社員と一緒に仕事をしている大企業も出てきました。ロータリーの根幹は職業奉仕であり、自らの職業をしっかりと務めることが第1です。従って、気ぜわしい現在の世で貴重な時間をロータリー活動に割くには、私達は、今まで以上に魅力ある活動を展開しなければ会員の維持、新規会員勧誘は難しいと思います。

ロータリーは単年度主義と言われますが、これは会長、ガバナー等の任期で、会員は毎年変わるわけではありません。従って、クラブ運営は継続性を以って行う必要があり、特に、仲間の拡大に繋がる元気なクラブ作り、研修を通じた会員歴の短い会員の育成、そして、新規会員の勧誘等は、永遠の課題であり、継続的取組みをもって対応する必要があります。

会員増強と言うと、「質か量か」の議論が先行して行動が伴わないケースがよく見られます。クラブの中には、会員が少なくても、会員歴の長い会員を中心に模範的な活動を展開しているクラブもありますが、会員の加齢は年々避けて通ることが出来ず、将来を考えると、このようなクラブでも新入会員、特に若年新入会員の勧誘に力を入れる必要があります。

ロータリー活動の経験が浅い私ですが、最近地区委員、ガバナー補佐等を体験し、ロータリーには、その活動・歴史等について知識が豊富で、研究を常に怠らない会員が多くいることを知りました。その後、私は、斯かる仲間から色々教えを受けています。

クラブには、このようにロータリー活動についての識見に富んだ会員も必要ですが、多くの会員にこのような活動を望むのは難しいと思うと共に、私は、全員がこのような会員である必要は無いと思います。それよりも、例会等に出席し、お互いに意見を交わし、知らないことを学んで成長していくことが大事です。

ロータリアンの中には、ロータリー活動を難しく考えたり、神聖視したりする人もいますが、111年の歴史を通じて変化してきたロータリーには、こうでなくてはいけない、あるいはこうあるべきだと言う絶対はなく、それより多様性が重んじられると共に、理念を求めるよりも実践・行動が重要だと思います。

ロータリーには、落ちていくゴミを拾う人よりゴミを落とさない人を育てよとの言い伝えがありますが、それは落ちていくゴミを拾わなくても良いということでは無いと思います。クラブの目標として時間をかけてゴミを落とさない人を育成することは大事ですが、一日一善、私たちは目の前に落ちていくゴミを拾うこと、仲間に声をかけること、何でも良いから毎日1つでも他の人の役に立つことをしようではありませんか。これが奉仕の実践だと思います。従って、Germ 国際ロータリー会長の言にもある通り、4つのテスト、ロータリーの目的、あるいはロータリアンの行動規範が実践できる人、また実践しようとする人であれば、誰でもロータリアンになる資質を備えているのではないのでしょうか。日本には長幼の礼と云って高齢者を敬うしきたりがありますが、ロータリー活動においては、私と皆さん、そして、昨日加入した会員と会員歴30年・40年の会員、皆平等です。大事なことは、ロータリーに加入した新会員と私たちが一緒に学ぶ謙虚さを持つと共に、知らないことを教え合い、次の時代のリーダーを育てていくことだと思います。このため、今年度は、多くの新入会員を対象に研修強化を図ることが出来るよう、地区主催ではなく、AG 主催により約10年前まで行われていた分區別別会員歴5年未満会員研修を復活させましたが、結果として、ここ2年は秋の行事となっていたIM開催時期を年明けに戻しました。

もう1つ忘れていけないことは、創立25、30年を迎えて会員の高齢化が進むクラブの中に、会員減少が顕著なクラブが見られることで、クラブ運営は常に課題を見つけ、その解決に継続的に全員で一糸懸命取組み、この時期を乗り切ることも重要です。私は、会員増強と言わず、あえて仲間の拡大と言いますが、全てのクラブが元気なクラブとして充実した活動を追求し、志を同じくする仲間の輪の拡大に繋げていただくよう、今年度ガバナー月信最終頁で元気なクラブを紹介しています。皆さんには、是非、他のクラブの模範となるような元気なクラブの活動をガバナー月信で披露していただくようお願いいたします。

ロータリー活動にとって大事なものは、RIでも、地区でも、またクラブでもありません。会員の皆さんです。従って、皆さん自らが、ロータリアンになって良かったと思うことが出来る活動を仲間と一緒に追及して下さい。

尚、RI会長は会員数が51名以上のクラブには会員純増2名を求めています。皆さんには更なる活動の活性化に向けてRI目標以上の会員純増に取組んでいただくと共に、①来年のR財団100周年に向け、例えば地域の奉仕プロジェクトにR財団100周年記念事業の冠をつける、②ここ2年続いている当地区のR財団寄付ゼロクラブOの継続に向けた協力、そして、③IT化が進む国際ロータリーにaccessするためのMy Rotary登録推進等をお願いいたします。

さて、本日の卓話の2番目のテーマは、変化するロータリーと、私たちの対応です。

今年1月、ガバナーになるため受講が必須の国際協議会に参加した折、来年6月に米国ジョージア州アトランタで開催される国際大会のスポンサーにコココーラ社が指名されたとの発表がありました。同時に、コココーラの文字とロータリーのロゴマークが印刷された赤いセロファンで包まれたコココーラの瓶が晩餐会の食卓に提供されたことに、私は、ロータリーがこんなことをするのかと驚かされました。

本年4月の規定審議会では、標準ロータリークラブ定款の近来稀な大幅改定が行われました。8月15日付で地区より和訳2016年版「標準RC定款」をご案内したので、皆様には、既に新しい標準RC定款の内容について検討を始められていると思いますが、今回の大きな改訂の多くは、義務ではなく、各クラブに選択権を認める任意規定です。即ち、改定された規定の中で、義務規定は、主として以下の9つです。

- 1) 理事に会計を含む
- 2) 理事会議事録の作成、及び会員への60日以内の回覧
- 3) 少なくとも①クラブ管理運営、②会員増強、③奉仕プロジェクト、④公共イメージ、⑤ロータリー財団の5つの委員会のクラブ内設置
- 4) 出席免除会員の条件に、少なくとも20年以上ロータリアンであることを付加